

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（四日市中央工業高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○「四中工はあなたの能力を伸ばします！」の指導方針のもと、学習者の視点に立って、全職員の共通理解を深め、学校全体で安全で安心な教育環境をつくり、生徒・保護者・地域の方々に信頼される工業高校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	○基本的な生活習慣が確立し、基礎学力やコミュニケーション能力の定着のもと、将来のグローバル社会においても対応できる実践能力や課題解決力を備えている。
	ありたい 教職員像	○企業が望む人材を育てるため、教員自らの授業力の向上に努める。 ○協働による取組により組織力を高めることが出来る。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 分かりやすく丁寧な指導を望み、社会で役立つ知識や技術を身につけたい。</p> <p><保護者> 生徒が希望する進路実現が果たせるよう、しっかりと指導してほしい。</p> <p><企業・大学> 基本的な生活習慣を身につけ、基礎学力やコミュニケーション力を持ち、社会人として組織の中で能力を発揮出来る力を身につけてきてほしい。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<p><家庭> 安全で安心な教育環境のもと、生徒の能力を伸ばして欲しい。</p> <p><企業・大学> 挨拶や礼儀などの基本的な生活習慣を確立させて欲しい。</p> <p><地域社会> 生徒の地域社会における規律遵守と地域行事への参加等協力が欲しい。</p>	<p><家庭> 学校の教育方針への理解と協力、及び躰等での家庭教育との連携が欲しい。</p> <p><企業・大学> 継続的な受け入れをして欲しい。技術指導等外部教育の面で協力して欲しい。</p> <p><地域社会> 地域が学校と手を携え、一緒に子どもたちを育てて欲しい。</p>	
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健委員会が牽引し、生徒の健康・衛生管理等に一層力を注いで貰いたい。 ・就職や進学保障が十分な中での入学希望者の減少は、工業高校卒業生の地元や社会への貢献度に対する周囲の理解を十分に得られるような魅力ある学校づくりを行うことが、大きな課題であり目標となる。 ・学校全体での取組が生徒指導の充実と進路保障に繋がる。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>授業規律の確立が進んできたが、より一層の充実を求め、生徒が傾聴の姿勢で授業に臨むような授業の展開を行うことが課題である。</p> <p>組織の中での対応力やコミュニケーション力を養うと同時に、生徒一人ひとりが基礎学力を向上させることが必要となっている。</p>	
	学校運営等	<p>部活動の活発な学校として中学校や地域、企業からの評価は高い。工業高校生として専門分野に精通し、グローバル化等の社会変化に対応できる力を身につけるとともに、部活動をとおして磨かれる強い精神力と身体を兼ねそなえた職業人を育成するため、組織力向上の取組を充実させる必要がある。</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業規律を遵守し、基礎学力の向上に資するしゅきをバージョンアップします。 生徒の基本的な生活習慣を確立し、挨拶や時間の遵守など社会生活での対応力を育てます。 低学年次からのキャリア教育に取り組み、生徒に組織や社会における対応力、コミュニケーション力を身につけさせ第1志望の合格内定者増を目指します。 温かい人間関係づくりや仲間づくりの取組をとおして、他人を思いやり、痛みの分かる生徒を育て、尊い命を大切にすることを育む教育の取組をめざします。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に提供する授業内容を工夫改善し、学力向上に繋げるため、小グループによる授業公開等を行い、教員の授業力向上を図る取組を行います。 学校活性化のための取組を進める上で、全職員が学校の課題を共有し、県立高等学校活性化計画を踏まえて多様な教育課題へ組織的、協働的に取り組むことができる集団づくりを進めます。 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、組織の目的を共有する対話の場をつくり、教育活動全般の刷新と業務内容のスリム化や課外活動の指導の工夫等により、総勤務時間の縮減を図ります。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する項目 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 朝の5分間トレーニングのバージョンアップに取り組みます。 【活動指標】生徒の実態に応じた内容での実施 【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価70% 	生徒の実態に応じた取組ができた、概ねできた【72%】	◎
キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 低学年次からキャリア教育に取り組み、組織の中での対応力やコミュニケーション力を養う。 【活動指標】多様な進路ガイダンス等の実施 【成果指標】生徒の進路実現に対する満足度90% 	低学年次からのキャリア教育の組織的な取組ができた、概ねできた【85%】	◎
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学マナーの向上や挨拶指導、服装指導を年間通して取り組みます。 【活動指標】日常の指導に加えて学期に1回の強化取組を実施 【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価60% 	日常的生徒指導と定期的強化指導の取組ができた、概ねできた【85%】	※
人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人権感覚豊かな学校環境づくりと仲間づくりを進め、命を大切にすることを育む教育の取組を行います。 【活動指標】人権講演会、人権LHR、中央祭や保健部行事等の学校行事の活用 【成果指標】年度末調査における教職員によるプラス評価70% 	人権感覚溢れる学校環境づくりの取組ができた、概ねできた【92%】	◎

改善課題

(1) 学習指導の充実

生徒の学習習慣の定着及び学力保障の観点からの取組として朝トレを行ってきたが、取組内容の改善や実施期間の延長などを施した。今後状況を少し見守っていく必要がある。

(2) キャリア教育の充実

本校のキャリア教育プログラムに沿ったキャリア教育を実践しているが、生徒への浸透状況や効果を考慮しながら展開し、自己満足にならないよう留意する必要がある。

(3) 生徒指導の充実

根本的に生徒の豊かな人間性を育むためにも、生徒自身が十分に理解した中での責任ある行動に繋がるようにしたい。社会一般的モラルや常識を身に付けた人づくりをめざした生徒指導が求められており、そのための教員の経験と指導力が不可欠である。

(4) 人権教育の充実

人権の尊重、他者への配慮、差別の根絶や命を大切にする教育の実践などについて、知識だけではなく、具体的な言動が展開できるよう指導していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する項目 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 協働による取組と課外活動等の指導の工夫により総勤務時間の縮減を図るとともに、県立高等学校活性化計画を踏まえた学校の教育課題への取組を進める。 <p>【活動指標】</p> <p>(1) 定時退校日の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則月曜日を定時退校日とし、原則日に実施できない場合は別の日に週1日以上設ける。 <p>(2) NO部活デーの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則月曜日をNO部活デーとし、原則日に実施できない場合は別の日に1日以上設ける。 <p>(3) 会議時間の短縮と会議数の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議時間を60分以内を目途とする。 年間会議数20%削減を目指す。 <p>【成果指標】 年度末調査における教職員によるプラス評価60%</p> <p>(1) 年間休暇取得日数の前年度比2日増を目指す。</p> <p>(2) 総勤務時間の前年度比3%縮減を目指す。</p>	協働による取組と総勤務時間縮減の取組ができた、概ねできた【90%】	◎
チームワークの向上・意欲の増進	<ul style="list-style-type: none"> 四中工の未来を語る会等を始め職員による交流会を開催し、今後の学校の特色化の推進を図ります。 <p>【活動指標】 年2回の実施</p> <p>【成果指標】 参加職員の満足度70%</p>	職員交流の場をとおした改善活動の取組ができた、概ねできた【72%】	
地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 工業高校としてのものづくり教育を充実させ、その成果や教育活動の内容を地域へ積極的に発信し、学校に対する理解を深め、地域との結びつきを充実させます。 <p>【活動指標】 年5回の発信活動</p> <p>【成果指標】 地域の満足度70%</p>	教育活動の発信による地域連携の取組ができた、概ねできた【88%】	※

改善課題

(1) 組織運営

年間を通して、職員との対話を重視し、意見交換や協議検討を行い、相互理解が深められるよう

努めた。一方、工業高校の特色化を図るために、学科の枠を越えた取組や地域との連携をとおしたものづくりを今後も継続することが大切である。

(2) チームワークの向上・意欲の増進

学校の今後の在り方を見極める上で、教職員の考えや要望を知ることが大切であるため、四中工を語る会での出席者相互の意見交換はたいへん有益であった。今後は、ここで洗い出された課題や改善点及び様々な意見をより良い方向に活用するための具体策を構築する必要がある。

(3) 地域との連携

学校での生徒の取組やものづくりの成果を、地域の人たちに広く知ってもらうために、学校外部に積極手に発信し、地域のニーズに応じていく必要がある。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向

生徒は落ち着きを保ち一定規律の遵守が成されているが、評価委員からは学校の看板を背負って活動しているという生徒の自覚をさらに徹底し、特に挨拶等今後も力を入れた取組の実践を期待されている。学校内外を問わず他への感謝の気持ちを言葉や態度で示すことが出来る四中工生を育てることも期待されたところである。地域全体で生徒を育てる取組の構築が必要であると感じた。学力向上に向けた取組やキャリア教育の系統的な取組のバージョンアップを図り、実践にも繋げていることは高く評価していただいた。特に、キャリア教育の取組の充実さを「見える化」するために作成した四中工キャリア教育プログラムの評判は、委員会においても好評であった。あとは、これを確実に実践していく必要があるとあり教員の協働が不可欠となってくる。今後生徒の就職先で人工知能AI等情報化の波が増々波及してくる中で、生徒たちに求められる職業人としての資質・能力については企業関係の委員の方からも貴重なご意見をいただいたところであり、本校のキャリア教育に大きく還元できるものである。そのような中で、工業高校を卒業して地元で働き、地域の繁栄に貢献する生徒たちの役割は大きく、生徒たち自身がいかにか貴重な存在であるかという自負の念を生徒たちに抱かせて、工業高校生として誇りを持ち社会貢献にたゆまない努力を続け、地域や社会が工業高校を拠り所として貰えるような、魅力ある学校づくりを行うことが、次の大きな取組目標となる。

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策

- (1) 生徒の学力向上の取組については、確実な成果を得るために朝トレの実施期間を延長したが、今年度を振り返って課題を洗い出し、安定性ある実施を図る。
- (2) キャリア教育については、生徒の進路実現のために求められる学力と人間関係形成力の育成に力を注いできた。そのため、指導方法及び内容の精査を行いながら、生徒の実態に即したキャリア教育の展開を図っていく。
- (3) 生徒指導の充実については、強制ではなく生徒の心に迫る教育が必要である。常に全教員の共通認識のもとでの生徒指導が必要であり、実現可能な教員集団であるために必要とされる意思疎通を形成できるような、良い学校環境づくりを進める。
- (4) 人権教育の充実については、差別に対する心の問題や人としての在り方を探究する人権教育であるべきであり、生徒の実態を教員が良く観察し、生徒の考え方を見極め、対話をとおして生徒理解に努め、生徒のところに迫る人権教育の在り方を追究していく必要がある。

学校運営につ
いての改善策

- (1) 組織運営については、さらに協働意識を高め、効率良い業務遂行のためにお互いが支え合う職場環境の形成が重要である。このことは、総勤務時間の縮減と教員の健康維持にも繋がる。また、定時退校日を今以上に増やすなど工夫重ねて学校運営のさらなる改善に繋げる。
- (2) 組織としてのチームワークの向上と教員の意欲の高揚のために、特に今年度転入した教員の本校に対する意見や印象を聴く機会を設け、活発な意見交換ができた。次年度は、ここで出た意見を現状改善に活かす具体的手立てを構築することが必要である。
- (3) 地域との連携については、地域に根ざした学校づくりのために、本校での教育活動やものづくりの成果を学校外部に配信してきた。この取組が地域にも浸透し、新たなオファーも得ることに繋がり、学校活性化に大いに役立っているため引き続き取り組んでいきたい。